

まちづくりの会で出された意見等

1. 「田老地区復興まちづくりの会」（9月22日、23日、26日開催）における意見

■みなさまからのご意見・ご提案

検討の進め方について	・市には、国や県などの関係機関と連携して進めてもらいたい。 ・みんなの集まる会は、遠方の仮設住宅にいる人も出席できるように、昼間にも開催してはどうか。 ・情報提供をする際は、わかりやすい表現が望ましい。 ・開催時には、防災無線を活用してみんなに知らせてほしい。
復興まちづくりについて	・国道45号を防潮堤の高さと同じ高さにしてほしい。

■主な意見交換の概要

検討の進め方について	Q：検討会の検討に若い人の意見も反映できるようにするのか。住民への情報の周知や意見提出の方法はどうか。	→	A：広報誌に併せて「まちづくり便り」をお届けし、若い人も含めて市民全体にお知らせします。また、「内覧会」や「まちづくりの会」も開催します。意見は総合事務所や都市計画課までお願いします。
	Q：移転や嵩上げなど、住民の意見が異なる場合はどうするのか。	→	A：個別の対応は難しいので、ある程度のまとまりのある地区でまちづくりの方向を決めていただきたいと考えております。
防潮堤や道路等の施設について	Q：防潮堤の高さや形状を、どのように考えているのか。	→	A：県が防潮堤の高さを検討中で、今後、情報を皆さんにもお知らせします。防潮堤は現在と同じ2重の形をとり、陸側の堤防を強化することを検討しています。
	Q：防潮堤はできるだけ高くしてもらいたい。	→	A：県で検討中ですが、過去2番目の規模である明治三陸大津波に対応できる高さになると考えられます。
	Q：田代川の水門を取り払い、河川堤防を整備することもあるのか。	→	A：1つの案として検討する。しかし、河川堤防を整備する場合は、ある程度上流まで整備する必要があります。
復興まちづくりについて	Q：提示された復興パターン案を組み合わせることはできるのか。	→	A：可能です。今回説明した復興パターン案をタタキ台として検討会で検討していただきます。
	Q：太陽光や再生エネルギーについて検討しているのか。	→	A：自然や再生エネルギーの活用は必要と考えており、復興計画に盛り込む予定です。市単独ではなく、県や国、民間と協力しながら進めることが必要です。
事業手法について	Q：高台移転や嵩上げは、どれくらい時間がかかるのか。	→	A：高台移転には3年以上かかり、嵩上げする場合には、さらに数年程度時間がかかると思われます。
	Q：事業への反対者がいる場合はどうか。	→	A：市が移転を強制することはできません。
	Q：地盤を嵩上げする場合、どれくらいの高さになるのか。	→	A：今回の津波の状況から、田老総合事務所の駐車場の高さが目安になると考えられます。
浸水区域内の土地、建物について	Q：非可住地となる場所にある、自分の土地はどうなるのか。	→	A：非可住地でも、加工場などに活用できるため、自分の財産として残すことができます。また、市で買い取る可能性もありますが、この場合は、個別の対応はできないので、地区でまとめて判断してください。
	Q：被災した建物を補修して使っている場合はどうか。	→	A：現在使っている建物はそのまま使用しても構いません。ただし、今後事業を行う際には、協力をお願いすることとなります。

2. 「地区復興まちづくり便り」に関する意見

- (1) 「地区復興まちづくり便り」でお知らせしているように、現在各地区で「地区復興まちづくりの会」が開催され、今後、地区別の具体的な検討に入ってまいります。そのことについて、あなたの考えをお書きください。

町全体の復興を地区住民みんなで考え、若い年代の意見も取り入れるべき。

(40 歳代 男性)

検討会のメンバーの再編成について意見が出ていたが、その点についての回答をまだ聞いていない。再編成が無理なら、とにかくメンバーの皆さんに、この検討会がどれだけ重要な役割なのかということを、再度、認識していただきたい。そのことを理解した上での、形だけではない熱き真剣な議論を願っている。

(30 歳代 女性)

会議等住民の集会は日中とし、夜は絶対に行わないようにする。交通機関を完備させれば可能ではないだろうか。送り迎えの車（バス）は必ず用意する。

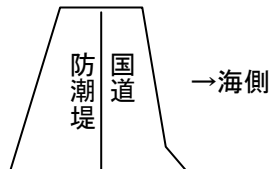
(70 歳代 男性)

- (2) 地区の復興まちづくりに関連して、あなたのお考えをお書きください。

①国道 45 号を防潮堤と同じ高さで海側に整備し防潮堤に厚みを持たせる。

(図参照)

②住民の一部の人達は、早く元の場所に住みたいと思っている。嵩上げせずに建物に条例を制定して、建設を許可したほうが良い。そして、一部補助金も支給する（住宅、店舗）



(40 歳代 男性)

①防潮堤はできるかぎり高くし、水門は無くしスロープで浜への道路は確保する（消防団員が多数の水門を閉めるのは危険）。国道 45 号線は安全な高さにするか別ルートで整備すべき。

②子孫が安心して住めるよう、高台で全てがそろそろようなニュータウンが望ましい。住民の高齢化が予想されるので、バリアフリーで、津波記念館等の観光客を呼べる施設もほしい。

(50 歳代 女性)

①近い将来完成する三陸沿岸道路と R45 号線沿いにタテに走る線を基準に集落を 2〜3 ヲ所に分担すべき。それぞれに公共施設建設（警察、病院、消防署、学校、幼稚園、保育所等）

- ・ 田老町内の高台（2〜3 箇所）
- ・ グリーンピア三陸みやこ、沿線の向新田（インターチェンジ予定地）
- ・ あと 1 箇所（余裕を持って）

②グリーンピア三陸みやこの移転先は向新田が良い。

- ・ 向新田は大きな凹凸の山が少なく、R45 号と三陸沿岸道路が走り通勤、通学、病院等に短時間で行く利便性を持っており、自然にも恵まれた地区
- ・ 三陸鉄道を造る時の 5〜6m 幅の道路もあり、国道沿いには水道管も完備され、電気線、電柱も多い
- ・ 国や市が土地を買ってくれば近所の人達も協力的

宮古市が二度と、このような大災害に遭遇せず、全国の地域モデル地区になる事を目指し、後世の宮古市民の命を守ることは今生きている我々の責務だと思う。

（60 歳代 男性）

高い防波堤や嵩上げ、人工地盤など、過剰な防御は住民の避難意識を低下させると思う。ハード面においては、「復旧」にとどめるべきだと思う。とにかく、避難教育や避難生活訓練をやり続ける（避難路や避難所の確認、整備も）。ハード面に莫大な予算を投じるよりも、むしろソフト面に全勢力を注ぐべき。

人口流失は、もう免れない。福祉の充実（集合住宅などと商店街や病院などを無料バスやタクシーで結ぶなど）、小人数の良さがある教育を目指すべき。世に出ていく若者を喜んで応援してあげられる田老、背中を後押ししてあげられる気持ちを持ち、帰りたくなったら「いつでも帰っておいで！」と広い心で受け止めてあげられる、そんな田老でありたい。後継者不足で悩むなら、漁業だけにこだわらず、みんなで新しいことにチャレンジしていけばいいと思う。浸水区域を国、県、市が買い上げ、かなりの範囲を農場にして共同経営にしてしまう（浸水区域には人が住まないようにさせる目的もある）。酪農もあるのだから、それらに関連した新たな産業や観光も生み出したり、ネット環境を早く充実させ、若い力が足りない時は、外にヘルプを発信したり、目指すところは、食べ物やら電気も自給率のアップに努め、田舎は田舎らしさを忘れず、都会で疲れ果てた人たちの息抜きになれる、そんな田老を目指したい。

（30 歳代 女性）

津波防災は、徹底的に高く大きな防潮堤を建設し、大津波も完全に阻止すること。（田野畑の北山断崖のように）

田代川、神田川、田ノ沢川、荒谷沢川、長内川、の入口に海拔10m程の防潮堤を築き、絶対に安全な住宅地の建設、田老港を取巻く高台住宅の建設。もちろん現在の防潮堤は大切に残すこと。現在、仮設住宅地のグリーンピアや檜内地区は使用し、必ずしも一箇所にとどめる必要はない。

田老の津波被害を受けたところは遠い将来に渡り津波被害危険区域と定め続け、その地で働かなければならない方のために近くの高い山への避難道を欠くことなく完全に整備しなければならない。

田老港を全面に眺める事ができる旧田老役場、常運寺あるいは小中学校等は田老地区の中心地としての役割を担わせ、例え周辺に住宅が少なくても良いのではないか。

働くための職場は可能な限りそれぞれの住宅の近くに誘致し、自由競争に管理体制を導入すること。

（70 歳代 男性）

3. 「復興に向けた計画づくりに関するアンケート調査（7月実施）」の自由記入より抜粋

大分類	中分類	意見
防潮堤等の施設について	防潮堤	防潮堤を巾10m、高さ15mにして車道にもなるような作りにする。
		旧堤防は破壊されましたが、堤防はそれなりに波の力を弱め、それなりの成果をはたしたわけですので、再生してほしい。
		海側と山側の2本の防波堤を分離し、2重構造によって津波エネルギーの減殺効果を高め、かつエネルギーの分散を図る。
		多数の犠牲者が出た以上、防潮堤対策も失敗であり、間違っていた。
		テトラポットを山積みした湾口外防波堤をつくってもらいたい。
	水門	水門が無い堤防を（野原地区）作ってほしい。
		海側の防波堤を越えて来る津波を田代川流域と長内川流域に分散させるため、両河川の水門と防波堤に高低差をつける。
	河川	津波エネルギーの分散先である河川の川側法面をコンクリートの擁壁で固め、かつ高くして津波の浸入を防ぐ。
		橋は道路の一部であり絶対に壊れることがあってはならない。
	国道等	山のほうに三陸道か田老道路みたいな道路も作ってください。
		三陸縦貫道、宮古-盛岡間の高規格道路の早期完成願います
	県道、市道	宮古や岩泉までの山道（迂回路）の整備もお願いしたい。
		道路も高台へ住宅へ合せて高くして欲しい。
		災害が発生したときに避難所が孤立しないように道路を整備したら良いと思います。
		安全な通学道路を確保してください
	避難路	避難路の確保、避難経路の案内板、誘導灯の設置など対策を練っていただきたい。
		新たなハザードマップの作成や、避難経路の確認などがあるとよい。
		避難道路の傾斜がきついので、階段と手すりを造って頂きたい。
	公共交通	バスと三鉄との乗り継ぎが不便で、全体の運行本数も少なすぎるので、高校生や仕事で通勤している方々がもっと便利に通えるようにしてほしい。
		車をなくしたりで移動手段を失った人のために、大型バスではなく、小型の車（マイクロのような物）などで便数を増やしてはどうか？
	公共施設	市役所の機能を災害に強いものにすることがある。
		平地には公共的な施設、サッカー場や野球場等スポーツ施設、斎場や娯楽施設を建てても良いかと思います。
		グリーンピアを改造、又は増築し、現在一番困っている老人施設へ転化し若者の雇用の確保を求める。
	公営住宅	公営住宅への取組みもぜひ確実に進めてほしい。
		仮設住宅の退居の時期までに公営住宅の整備を前倒しする必要があるのではないかな。
		自力での住居の建設は年齢的に大変で、早期の公営住宅の建設が急務と考えられます。早い時期に方向性を示してほしい。
		公営で住宅等建ててもらえたら、田老地区の人達がふる里に戻れるのではないかな。
復興まちづくりについて	将来像	住まいの確保がしたいので、街づくり基本計画を早期に作成してほしい。
		漁業、観光を重点的に復興していただきたい。そうすれば産業が発展すると思う。
		少子高齢化である現実も考え計画づくりをしてほしい。
		奇抜な発想にて思い切った長期展望を見すえての町作りをお願いしたいと思う。小さい事をくよくよするより関係各位の皆様の思い切った手腕に期待してやみません
	漁港について	早急に漁業関係を再生し、雇用の場を設けてもらおうと田老地区の再生は早いと思います。
		魚市場の整備を早くお願いしたいです。
		港湾整備を早急をお願いします。
		漁港の集約は反対。岸壁と居住地への取付道路、岸壁の駐車場、通信等の整備が必要。
	情報提供	在宅被災者にも情報提供をお願いします。
		住宅再建の情報提供（資料配布等）と相談を役所に設けていただきたい。

大分類	中分類	意見
復興まちづくりについて	復興パターンについて	居住エリアと産業エリアを区分けする復興計画が必要と考える
		住宅建設可能な土地の範囲を早く決めてもらいたい。
		田老地域の皆さんが一人でも多く残り、一ヶ所に住む場所を早く確保して下さい。
		一人暮らしの買物とか病院の通院が不可能かそれも心配になります。
		被害を受けた跡地に産業や工場など希望します。
		産業復興は、幹線道路網の整備計画やまちづくり構想とも密接な関わりがあると思われるので、被災した産業経済界の経営者の考え方や提言や要望にも耳を傾ける必要がある。
		学校、施設、役所なども被害を受けない場所に移転希望します。
事業手法について	防災対策	防災スピーカーがないところがあるので設置してもらいたい
		学校や集会所・公民館等の改修、使用出来るように早急にすすめてもらいたい。人が集える場所、もしもの場合の避難所としての機能回復してもらいたい。
		避難先を、はっきり明示できるように設備を強化しておく事を希望します。
		外堤防内、内堤防内からもすぐ避難できるよう、高台に避難所の設置。
		防災については水門閉鎖、避難誘導を必要としないような環境が望ましい。
		東日本大震災以上の災害を想定して防災計画の見直しを。
		市内業者に徹底して防災非常時のマニュアルを作成させるべきだと思います。
	高台移転	「減災」という考え方のもと、高台への移転を希望します。
		田老地区は、数十年後に再度津波が来るわけだから、その時被害を最少にする為に、山林を切りくずして住宅用の高台に整備して、町の中心部から移転する。
		漁業者であるため港の見える高台に住みたい。
		高台に移住した人でも、数十年経過すると、海に生活基盤があれば、生活に便利な海のそば、平坦部に作業所を設け、やがて住むようになっていくのではないかな。
	面的嵩上げ	高台に移動でなく、海岸端に国道を兼ねた強固な坊浪堤を築き、旧坊浪堤を崩し田老地区の低地の嵩上げする事が昔から築いてきた津波田老を後世に伝える道と考えます。
		堤防の内側の街並みを堤防の高さに土盛りする。国道を堤防の上を走らせ堤防幅とする。土盛りは山を削り、山に高台の住宅等を建築する。
		現在の場所に住めるよう考えて貰いたい。既存の設備（污水施設、水道施設）を活用してもらいたい。この際、土地の嵩上げが必要である。
	共同住宅	公営住宅への取組みもぜひ確実に進めてほしい。
		仮設住宅を出た時どうすれば良いか不安である。その時までには市営住宅を作ってもらいたいです。私達には家を建てる金もありませんし、それを1番要望します。
浸水区域内の土地・建物について	個別再建について	被災した地に住宅を建てることのできるのか、できないのか、早い機会に示してほしい。
		家を建てるにも二重ローンの心配が有る。自営業の方々は店・倉庫は罹災証明が出ない。住宅だけではなく自営で生活している方々の救済ももっと幅広く考えてもらいたい。
		希望の地で3年以内には家を再建したい。仮設住宅や狭いアパートに押し込められたみじめな生活から早く抜け出したい。
		北高近く、檜内、新田平、小堀内あたりで、今まで住んでいた土地と交換してほしい。無理であれば家が建つぐらいの土地を確保してくれば助かります。
		住宅の再建についての市の見通しを一日でも早く示して欲しい。
	土地の利用	津波被害を受けた土地の今後の利用についても早くお知らせして欲しいものです。
		被災したエリアを産業と防災エリアとして活用。
	既存不適格	何もなくなつた土地の利用、再建を計画するには色々と決め事をクリアしなければいけないと思うが、港を先に作ってもらいたい。
		被災した私有地は住宅建設に不適。買い上げてもらえれば、適地にて用地を確保したい。
	売却	田老地区の防波堤内建築確認の早期（2～3年以内）結論を出してほしい。
		浸水した土地は今後どうなるのか（国や自治体で買い上げるか。借り上げか）。
		被害を受けた場所には色々な思いがあり、二度と住みたいとは思わない。早く今後の方針を出して貰い、土地の代替え、買い取りをお願いしたい。
		被災した場所及びその周辺は国で買収し、県又は市の管轄とし、近隣の山を宅造し、売れば良いと思います。
	権利	前の土地（坪数）をちゃんと確保できるか不安。
		土地をもっている危険区域に家を建てることのできないので、代替地を作り震災前の土地と交換してほしい。